



奮闘記

全国消防操法大会

10月7日に東京都江東区にある東京臨海広域防災公園で開催された第23回全国消防操法大会。これは、全国大会出場を果たした牛深方面隊の記録です。

10月7日
 いよいよ大会当日。しかし、昨晩からの雨がまだ降り続けている。会場に到着するも、やはり雨。カッパを着ての入場行進・開会式となった。
 そして、ついに競技開始。牛深方面隊の競技順は最後から2番目のため、出番は午後となる。昼になり、雨が止む。どんどん出場順が近づいていき、いよいよ本番を迎える。
 青空が広がり、陽が差ししてきた。資機材のセットが終わり、選手たちは待機態勢に入る。操

10月6日
 会場での前日練習。晴れてはいるが、雨の前特有の蒸し暑さでジメジメしている。
 本番で使用するコースは使用できず、水出しでの操法もできない。同じ会場内にある練習スペースで操法を行う。
 訓練が終わりホース検査を受け、明日の開会式のリハーサルが始まる。入場から開会式までの長いリハーサルだった。その後、会場隣の東京ビッグサイトで出場選手の激励交流会が行われた。夜になり雨が降り始める。

終わりに
 今回の全国大会では、市や消防団員、地域の皆さんなど多くの支援を受けた。もちろん、長期にわたる訓練で選手、応援団員、それを支えた家族などの苦勞も、多大であったと思う。
 しかし、県大会を勝ち抜き、全国大会出場という輝かしい1ページを天草市消防団の歴史に残したことは、たいへん意義深く、名誉なことであったと思う。

法開始の合図があり、選手たちが動き出す。応援で駆けつけた団員、東京牛深会の皆さんからも応援の声が飛ぶ。そして、競技終了。
 結果は納得いくものではなかったようだが、市消防団として他チームにも引けをとらない操法ができたと思う。



▲操法を行う選手たち。背後には東京牛深会の横断幕

機能別団員制度の紹介

市では今年4月から、昼間の火災における出動人員の確保を目的として、消防団員経験者を対象にした「機能別団員制度」を導入しました。現在、各方面隊に124人が所属しています。

- 資格
 - ・70歳以下で、昼間も管轄区域内にいる人。
 - ・消防団員の経験が10年以上ある人。
- 活動内容＝主に昼間の火災時に、所属する分団の範囲内で消火活動を行う。



▲松下団長(左)から辞令書を受け取る機能別団員

方面隊だより

非常事態に備えて

五和方面隊消防機械器具審査会

五和方面隊では、毎年11月に実施される「秋の全国火災予防運動」にあわせて、消防機械器具審査会を開催しています。この審査会は、火災などの有事に備えるため、また、団員の士気の高揚を図る目的で、旧五和町消防団の設立後から行われており、50年近く続いている伝統行事です。



▲審査会のような様子

12月の冬季訓練で表彰を行っています。各部では、日ごろから消防車輛、資機材の点検・整備、消防格納庫の清掃を行っています。審査会前になると上位入賞を目指して連日連夜、点検・整備に取り組んでいます。



▲きれいに整頓された格納庫

今年の審査会は11月4日に行われ、ピカピカに磨き上げられた消防ポンプの前で操作員がエンジン始動を行い、緊張した面持ちで審査を受けていました。また、当日は、団員が管轄区域を巡回し火災予防の呼びかけ、防火チラシの配布などの広報・啓発活動も行いました。
 このほか、秋の全国火災予防運動期間中は、積載車による巡回広報や火災を想定した非常呼集訓練を実施し、火災予防、消防技術力向上に取り組んでいます。

キラリ☆女性団員



天草市消防団では、多くの女性団員が活躍しています。11月1日現在で、本部の女性消防隊に19人、御所浦方面隊の女性消防部に28人が在籍しています。

主な活動内容は、火災を未然に防ぐための啓発活動で、特に春と秋の火災予防運動期間中は高齢者宅を訪問し、防火を呼びかけるなどの活動を行っています。

また、2年に1回行われている女性消防団員による県操法大会にも出場しており、昨年は4位入賞を果たしました。

消防団は、さまざまな職業や年代の人たちが集う交流の場でもあります。多くの女性の入団をお待ちしています。



▲高齢者宅を訪問し啓発活動を行う団員たち



◀昨年行われた県操法大会